

必ず○をつけて
下さい

2024（令和6年度）・専門研修課程Ⅰ事例検討

介護支援専門員番号： 10123456

事例提出者氏名： 群馬 太郎

事例について： 現在進行形的事例 ・ 過去に担当した事例

ケアマネ経験年数 約 3 年

ご自分の年代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上

事例題名：「訓練人生」に陥りそうな利用者の支援の見直しについて

必ず題名を記入
してください

□担当としてこの事例に携わっている(もしくは携わっていた)期間： 1 年 2 ヶ月

性別：男性	生年・年齢：昭和15年 83 歳
傷病名：脳出血後遺症（右半身麻痺・失語症） 高血圧症	要介護度： 3 各自立度： B1・I 手帳等：身障手帳2級（肢体）

事例の概要および事例選択理由

令和2年1月、脳出血にて A 病院へ入院。回復期リハ棟、介護老人保健施設を経て、令和4年4月に在宅となり支援開始。急性期以降、3年以上もリハビリを目的とした医療機関に入院・入所していたのは本人のリハビリ意欲が強く、厳しい機能訓練をやればやるほど「良くなる」と信じているためである。

しかし、そのことが在宅生活に反映されないどころか生活機能の向上を妨げ、介護者の負担にもなっていると考えられることから支援計画の見直しをすることが必要と考え提出。

現在、支援に関わっている関係機関・サービスおよび個人

B 通所リハビリテーション事業所、C 短期入所療養介護事業所、D 病院、妻、本人の姉、私（介護支援専門員）

家族構成・関係

分譲マンションで妻との二人暮らし。妻が主介護者で、週に2度の買い物や通院介助のため本人の姉が来て副介護者となっている。子供2人はいずれも男で、長男は E 県、次男は F 県在住で各々所帯持ちであり、緊急時以外はアテにならない。ご本人の兄弟は県外で疎遠。

生活歴および支援経過

G 県生まれ。裕福な家庭に育ち J 大学（野球部）を経て、F 会社に勤務。26歳で職場結婚し3年間の海外赴任を経て管理職となったが、50歳の時に脱サラして、現在地に転居しバブル期に自営業を始める。数年間は好調な経営状況だったが、バブル後は「食べていける程度」となり「店をたたんで老後を楽しもう」と考えていた矢先に発症した。

R2年5月に初回の要介護認定申請。以来、要介護3のまま。

R3年1月に入所中の介護老人保健施設の紹介で、居宅介護支援事業所と利用契約する。

R4年4月より、本人の希望で、B 通所リハビリテーション事業所にて週3回の通所リハビリと、C 短期入所療養介護事業所にて月10日間のショートを利用し続けている。（C 短期入所療養介護事業所は、入院した急性期・回復期の D 病院の系列事業所である。R5年5月のサービス担当者会議にて、B 通所リハビリテーション事業所の OT より「住宅改修もなされていないし、短期入所の様子を聞くとリハ室での機能訓練ばかりで、生活リハというか

生活機能向上の視点に欠けているのではないか？」という疑問が呈された。B事業所のPTと医師は「本人の希望どおりにしている。通所リハの一部しか見ていないOTに、とやかく言われる筋合いはない」と協議・検討は打ち切られてしまった。

本人は「リハ室で杖歩行の訓練をすることが最重要で、院内・施設内を完全に歩けるようになってから自宅での生活の仕方を考えればよい」と言われたので、とにかくそれを続けることが必要だと思い、その指示に従っている。

こんなことになる前に考えていたように、妻と老後を楽しみたいが、それは今の施設内を完全に歩けるようになってから考えたい。」

本人は真のニーズに気がついていないと考えられ、R5年8月に再度、サービス担当者会議を開き説明をしたところ、B事業所だけは納得してくれないために他の事業所への変更も含めて、ケアプランの全面的な見直しをしようと考えているものの、現時点において何から始めたらよいのか迷っている。

介護支援専門員番号

名前

事例が二枚になる場合は、介護支援専門員番号と、お名前を記入して下さい。

間違いが多いので、介護支援専門員証をよく確認して記入してください。